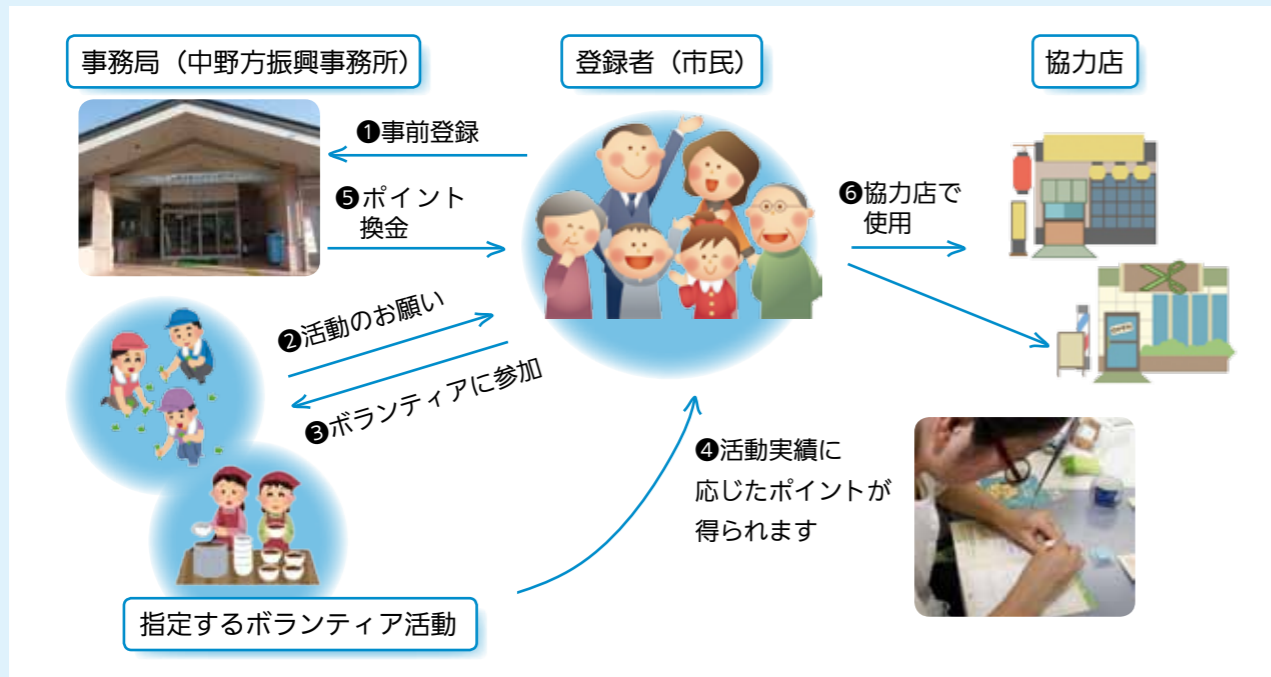


ふれあい・ささえあいポイント事業の仕組み



目的

1. 活動を通して、健康づくりや健康意識、地域貢献意識を高める。
2. 地域の触れ合いや支え合い活動をより活発にする。
3. 人口減少により不足している地域活動の担い手を補う。
4. たまったポイントを地域通貨「モリ券」に交換することで、地域経済を活発にする。

ポイントの対象となる活動（7月1日開始時点）

1. 外出支援「おきもり」運転手 交通手段が無く、外出が困難な方に買い物などの送迎を行う「おきもり」の運転を行います。 活動先 まめに暮らそまい会	2. 「ささゆり会」弁当作り 1人暮らしの高齢者宅へ配達する手作り弁当の調理を行います。 活動先 まめに暮らそまい会	3. まめくら運営スタッフ補助 介護予防などを行う「まめに暮らそまい会」の事業運営を手伝います。 活動先 まめに暮らそまい会
4. 高齢者の見守り、声掛け 1人暮らしの高齢者宅を定期的に訪問し、見守り活動を行います。 活動先 まめに暮らそまい会	5. 棚田イベントスタッフ補助 主催者の指示により、前日のテント設営や当日の案内、交通整理などイベントの運営補助を行います。 活動先 坂折棚田保存会	6. 不法投棄のごみ拾い 不定期に行われる不法投棄などのごみ拾いを行います。 活動先 中野方地域協議会
7. 空き家の片付け、整備 移住定住を進めるための空き家の片付けや整備を行います。 活動先 中野方地域協議会	8. ふるさと文化祭りの手伝い 主催者の指示により、受け付け、会場準備など運営の手伝いを行います。 活動先 中野方コミセン	9. コミセン周辺整備の手伝い 中野方コミセン周辺の草刈りや溝掃除などの手伝いをします。 活動先 中野方コミセン

- ◆ 60分の活動に対し、スタンプを1個押印。1日の上限は5個、年間の上限は50個です。
- ◆ スタンプ1個を1ポイントとし、10ポイントごとにモリ券1枚（千円相当）と交換ができます。
- ◆ モリ券への交換申請は翌年1月。社会福祉協議会などの団体へ寄付することも可能です。
- ◆ モリ券は笠周三町（中野方町、飯地町、笠置町）の協力店で使用できます。（7月20日現在17店舗）



▲指定されている九つの活動の一つ、1人暮らしの高齢者に向けて手作り弁当を調理

中野方町で始まった新たな地域の担い手づくり ふれあい・ささえあい ポイント事業

中野方町では7月から「ふれあい・ささえあいポイント事業」がスタートしました。

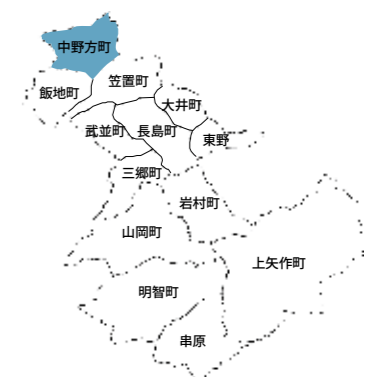
この事業は、事前に登録した人が、中野方町が指定する活動に参加することで、実績に応じたポイントが得られ、たまったポイントは地域通貨「モリ券」に交換ができ、協力店で買い物や食事を楽しむことができるというものです。

ここでは、その事業の概要を紹介します。

□お問い合わせ 中野方振興事務所 ☎23-2111

中野方町

面積 23.64平方*
人口 1,630人
世帯数 543
高齢化率 39.14%



人口などのデータは、7月1日現在の住民基本台帳によります



ポイントをとめる楽しみができ、地域経済の活性化にもつながる。非常に良い制度です。

事業の実施主体である中野方地域協議会の池戸克行会長に、事業に至る経緯などを伺いました。

地域を支える担い手の不足が大きな課題だった

中野方町も少子高齢化が進んでおり、高齢化率がどんどん高くなっています。どこの自治会も役員を出すことさえ非常に困難な状況になってきました。お年寄りが増え、若い人は町を出て行ってしまふ。そうすると、各家庭で高齢



▲高齢者の移動手段として欠かせない「おきもり」号

者の移動手段に困る状況になりました。医者へ行くにも、買い物をするにも、郵便局、農協など、どこへ行くにも困ってしまうので、それをみんなで助け合って、ボランティアをしようと思ったのが、地域移送サービスの「おきもり」です。

登録運転手は現在33人。平均すると毎日3、4人の利用があります。利用するお年寄りが大変喜ばれますので、その姿を見ると、やって良かったなと思います。

しかし、ボランティアといっても全くの無償でやってもらうのは大変なこと。場合によっては丸1日つぶれてしまいます。さらに少子高齢化と人口減少が年々進む中、地域福祉や地域活動を支える担い手の不足が大きな課題になっていました。

そこで、ボランティアをしてくれた方へ何かの形で応え、住民が積極的に地域活動に参加してくれ

る仕組みとして編み出した方法が「ふれあい・ささえあいポイント事業」です。活動した人にはポイントをとめる楽しみができる。ポイントを重ねることによってそれをモリ券に交換できる。モリ券を使っていたら、地域の活性化にもつながる。非常に良い制度です。

町の地域づくり事業として市の助成金を活用

事業の財源は、地域づくりの助成金を充てています。本年度から市では第2次総合計画が始まりました。中野方町では、地域計画を策定するに当たり、何度もワークショップを重ね、課題を洗い出し、①里山の恵みを活かす②みんなが生き生きする③安心して暮らせるまちにする—を地域計画の三本柱としました。

また本年度からまちづくり活動に対する市の助成制度も変わります。

中野方地域協議会 会長 池戸克行さん

した。中野方町では地域計画に基づいて、町単独の地域づくり事業と地域間連携による事業を三つずつ提案したところ、おかげさまで全て認めていただきました。この町単独の地域づくり事業の一番手が「ふれあい・ささえあいポイント事業」になります。

50万円の予算ですが、まだスタートしたところですので、結果がどのようになるかわかりませんが、あまりにも参加者が多いと、予算がオーバーすることも考えら

れます。初年度は7月からのスタートとなりましたが、ひとまず半年間で締め切り、1月に集計をした段階で、ある程度の見通しが立つと思っています。

現時点で事業の対象としているのは、四つの団体が主催する9種類の活動です。これらの活動へ参加してくれた方へ1時間当たり1ポイント、1日の最高は5ポイント、主催する団体の責任者が手帳にスタンプを押します。10ポイントでモリ券1枚(千円相当)に交換ができ、期間中、最高を50ポイントとしています。たまたまポイントが次の年に繰り越すことはできませんので、半端になる人もいます。こうしたポイントを活用する方法もこれからの課題です。



▲3時間の活動を終え、手帳にスタンプを3個押してもらった7月8日、中野方コミセン

用語解説

●おきもり
中野方町内で行われている移送サービスのこと。交通手段が無く、移動が困難な方の送迎を行います。移動範囲は中野方町内に限定されており、無料で利用することができます。

おきもりを利用したい高齢者は、事務局のNPO法人まめに暮らそまい会へ前日の昼までに申し込みます。事務局では、運行ルートなどを調整し、午後4時までに当番の登録運転手へ連絡します。

中野方町には、田植えの時期に一面の水田を見渡し、遅れている所の田植えをみんなの手伝い「おきもり」という風習がありました。移送サービスの名称を決めるときに、あるお年寄りが言った「おきもりはどうか」の提案に一堂賛同。頼まれなくても、みんなが助け合う心意気をおきもり」に例えました。



例えました。

●モリ券

「山を手入れしながら、地域を元気にしよう！」と中野方町で平成21年12月に始まった社会実験「木の駅プロジェクト」で使用している地域通貨のこと。間伐した木を出荷すれば、モリ券と交換ができます。キャッチフレーズは「軽トラとチェーンソーで晩酌を」。



▲モリ券。1モリは千円相当の地域通貨として使用できる。現在、地元小学生から新しいデザイン案を募集しており、この秋にはデザインを変更の予定

中野方町では、転入世帯に2万円分、赤ちゃんが生まれた世帯に3万円分のモリ券を贈るなど、移住定住と人口減少対策にもモリ券を活用しています。このように子どもから高齢者までがモリ券を使用することで、山への関心を高め、保全につなげていくことができます。